



つちだこうしょう●麻雀プロ
プロ連盟所属。第2回麻雀グランプリ、第11期鳳凰位を獲得。



諸永龍平 読者麻雀最強位



北は北海道、南は九州から総勢2000名が参加した今年の読者大会。参加者が前年比90%増の大会なんて、前代未聞じゃなかろうか。仙台では地和・国士のダブル役満も飛び出したといだ。

東京で行われた本大会には84名が参加した。なかには漫画家大会でなくわざわざ読者大会から出場した漫画家・本そうちの姿もあった。燃え立てるような熱戦を制したのは九州代表の諸永龍平、21歳だった。

もうながりゅうへい●大学生
九州工業大学3年生。現在就職活動中である。

撮影◎マクス正木/寺内康彦 文◎福地誠

土田浩翔 プロ麻雀最強位

1次～3次と予選大会を3回も行って、総勢98名から出場者を選びに選んだ今年のプロ最強戦。本大会では若手から常連まで濃密な闘いをくりひろげた。決勝戦。土田浩翔が先行して安藤満が追う展開となった。安藤はわずか1000点差まで詰め寄る。だがもう一步届かず、宇野公介のアガリで決着がついた。この大会に、プロとしての進退を賭けていたという土田が優勝。宇野のアガリは、決勝戦のオーラスで優勝に絡まないアガリは是か非か、と論議を呼んだ。

チャンピオンズ カーニバル



藤谷コマキ 漫画家麻雀最強位



ふじたにこまき●漫画家
代表作は「心のまま」「スノウ」「鳥人類生態学入門」

一般ビーブルの3倍のテンションを持つといわれる漫画家たちが集結するこの大会。そこから決勝に進出したメンバーには、新宿の雀荘メトロに集らメトロリーグから2人が入った。その1人である藤谷コマキは、漢字のとがった方向を相手に向けて攻撃する「ビーム」と「木ビーム」の効果だろうか、史上最高ポイントで優勝した。



第9回麻雀最強戦

今期、最強の名を冠する者たち、一堂に会す——。読者、漫画家、著名人、プロ、別々の個性を持った集団のチャンピオンたち。ここでは、かれらが最強の称号を手に入れた戦いを振り返るとともに、かれらがぶつかり合った特別対局の模様をお届けする。その戦いは、さながらアカギVS狼の淶VS黒ラックといった個性と個性の激突だった！

倉田てつを 著名人麻雀最強位



華やかさと落ち着きを合わせ持った大会。それが著名人最強戦だ。それぞれの業界を生き抜いてきた意思の強さがキラリと光る。大人の麻雀を堪能できるわけである。

決勝戦。起家でスタートダッシュを決めた倉田は、途中でフリコミが続いて3位まで落ちる。オーラス、ツモって逆転のリーチを入れたとんに打たれたアタリ牌。しかし倉田は眉ひとつ動かさずに見逃して、数巡後にツモり上ける。「麻雀はガツツで打つ」を、体でもって示してくれた。

くらだてつお●俳優
代表作は「仮面ライダーBLACK」「君の名は」

